

# 年中行事

- 一月一日 初詣り、神変大加特祈禱神事
- 一月二十一日 道饗祭、みちざり神事、どんどやき神事
- 二月三日 節分祭、幣電神事
- 二月廿日 初午祭
- 三月一日 稲穂神社祭、道相神祭
- 四月初旬 祈年祭、花まつり、鏡塚まつり
- 六月十五日 水神祭、大雷神祭
- 六月初旬 大抜、夏越の抜
- 七月初旬 形代流し、大抜、連合船祭り
- 八月十五日 笹だんご神事（江戸川区登録無形民俗文化財）
- 八月二十一日 大祭
- 十一月一日 注連縄送り初め式
- 十一月西日 大鳥神社祭、墓目の神事
- 十二月三十一日 大抜い

## 神社の由来

香取神社は別名を間々井神社と稱し、棟札によると、元和三年（一六一七年）に再建されたとご神徳の多い有難い神社です。

その当時より、社の東に流れる小松川（親水公園）は、下総、国府台真間と武蔵江戸城を結ぶ重要な水路でありました。伝説によれば、長録の頃、太田道灌持資は、国府台控城に往来の時、この神社に舟を泊め、境内の霊水を吸み、船路の安全を祈願したので間々井神社と稱される様になったことを伝えてあります。

当時は、当地に十六軒の農家しか有りませんでした。荒地を耕し苦勞の末、切り開いたのです。その小松川十六軒農家が当神社の創立をしたと言います。天正十八年には徳川家康江戸入城となり、産物の販路も開け農民も豊かになりましたが、丙午年毎に襲う大洪水に（天明六年）人馬穀類共に大飢饉に遭遇した事が記されてあります。現在の本殿は文政五年（一八二三年）今より約百七十年前、用材を仕入れ、五分一に住む宮大工八郎次が十年の歳月を経て、天保三年に完成させた名建築物であります。

明治六年には太政官より地租改正のお触れがあり、村民はそのお触れに従い土地調査事業に着手、村内の精密な地図を作成、武蔵国葛飾郡西小松川村全図が出来、初代知事により検認されました。その武蔵国葛飾郡西小松川村全図は、江戸川区有形文化財に指定され当神社に保存されて居ります。

遠い長録の時代より平成の今日迄、有難いご祭神のご神徳に感謝し、その靈験を戴き、信ずる人々の念願の達成をお祈り申し、合掌致します。

平成元年 六月吉日